

# 光と緑の風通信

発行/2011年2月25日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 TEL024-547-1111 (代)

慈しむ気持ち  
を  
忘れないで

学部長 鈴木 順造



ご卒業おめでとうございます。皆さんの輝かしい前途を祝し、心からお祝いを申し上げます。

皆さんは本学で4年間、しっかりと学び、保健・医療・福祉に関わる広い領域で活躍できる質の高い看護専門職者に成長されました。顧みて、大学

が皆さんに求めてやまなかったのは、自ら希望した看護専門職に必要とされる知識と技術の習得、そして自主的な学びの姿勢です。これから皆さんを待ち受けているのは言うまでもなく、結果責任を問われる厳しい社会です。従って、ややもすれば自己中心的な考えで行動し、自己満足を得がちになりますが、それでは皆さんに思いを寄せた方々に寄与することができません。習得した知識や技術をさらによりよいものにするために必要なのは他人への慈しむ気持ちです。そうすれば、責任と優しさが伴ってき

て、皆さんは混沌たる社会で光り輝く存在になるものと思います。自分が選んだ道を進んでいくということは大変すばらしいことです。これから皆さんは、半世紀以上、社会人として医療現場をはじめとしているなど、活躍されることでしょう。自分の力を信じて未来の可能性に向け果敢に挑戦し続けてください。10年、20年後の皆さんの有り様が楽しみです。そして、どんな立場になっても、どのような時にも、福島県立医科大学の卒業生であるということとを誇りとして、真摯に生きていただきたいと思えます。

(すずき じゅんぞう)



未来を拓いて

研究科長 横田 素美



大学院修了、大学卒業、おめでとうございます。毎年、この時期、新たな第一歩を踏み出す修了生や卒業生の皆さんを頼もしく思い、その姿を見送りながら、私自身もこの新たな一年に臨む気持ちを確かめています。いくつ歳を重ねてきても、桜が咲き誇る四月の時期を迎えると、この

一年、どのようなことが起こるのだろうかと期待と不安が胸の内をよ過ぎります。人は誰もが「未来の自分」に期待し、その未来を信じるからこそ前に進むことができるのではないかと思います。確かに、自分の周囲で起こっている様々な状況に目を向けると、「未来に期待は持てない」と思ってしまうことはあるかも知れません。でも、自分の「未来」をどのようなものにするのかは、外でもない「自分」なのです。「未来の自分」に繋がっているのは、まさに「いま現在の自分」であり、自分が期待する方向に自分の第一歩を踏み出さなくては、望むべき自分の未来に近づくことはできないのではないかと思います。イギリスの劇作家

であるバーナード・ショーは、「人間を賢くし、人間を偉大にするものは、過去の経験ではなく、未来に対する期待である。」という言葉を残しています。未来の自分への期待が、今の自分を動かす原動力になり、いくつ歳を重ねても、自分を研鑽することに繋がるのだと思います。「明日のあなた」を創るのは、「今日のあなた」であり、誰かが「あなたの未来」を届けてくれるわけではなく、「未来」はあなたが拓いていくものです。だからこそ、「未来」は素敵なのです。今の自分を信じ、これからの自分に期待し、その一歩を踏み出して下さい。あなたが自分の未来を拓いていくために！幸多かれ!! (よこた もとみ)



## 未来に羽ばたけ

4年 安西 純子

卒業を間近に迎え、長いようで短かった4年間が今まさに終わろうとしています。4年間を終えて後輩の皆さま

んに伝えたいことは、学生生活を思う存分楽しみ、部活、アルバイトなど多くのことを経験し、感性を磨いてほしいということ。そして、実習や講義に真剣に取り組み、自分自身や患者さんと正面から向き合ってほしいと思います。その過程は大変ですが、私は新たな自分の一面を知り、人間としても成長することができたと感じています。将来、人と接する仕事に就く私たちがだからこそ、人間として成長し、豊かな感性と人の痛みをわかる心が必要だと思いに期待を抱きながら入学したことを、つい最近のことのように感じます。2年間と短い大学生活でしたが、たくさん思い出をつくることができました。

学習面では、地域看護学や家族看護学など看護学校では学んでこなかった分野についても学ぶことができ、自分の看護に対する考えをより追及するようになったと感じます。部活動にも所属していたので、他学部・他学年の人との交流の中で人間関係が広がり、とても充実した大学生活を送ることができました。また皆さんには、今の看護学部の現状に甘んじることなく、常に新たなことに挑戦し、理想の看護師像を胸に、より良い看護学部を作ってほしいと思います。そして、福島県立医科大学を卒業したという自信と誇りを持って、未来に羽ばたいて欲しいと願っています。私は素晴らしい先生方と愛すべき友人たちに支えられ、無事巣立っていくことができそうです。今後は、後輩の皆さんのご活躍を期待しています。(あんざい じゅんこ)

## 学生生活を振り返って

編入4年 丹澤 幸美



福島県立医科大学に編入して、2年が経とうとしています。慣れない土地での一人暮らしへの不安と、大学生活

に期待を抱きながら入学したことを、つい最近のことのように感じます。2年間と短い大学生活でしたが、たくさん思い出をつくることができました。学習面では、地域看護学や家族看護学など看護学校では学んでこなかった分野についても学ぶことができ、自分の看護に対する考えをより追及するようになったと感じます。部活動にも所属していたので、他学部・他学年の人との交流の中で人間関係が広がり、とても充実した大学生活を送ることができました。

4年次の課題別実習はとても辛かったです。学習面では担当の先生からアドバイスをいただき、グループメンバーと協力し合ったことで、とても学びの多い実習にすることができました。このように、大学では、友達、先輩、先生などたくさんの方に支えられ、様々な考え方や価値観に触れ、人間として成長することができたと思います。ひとつひとつの出会いを大切に、充実した大学生活を送ってください。(たんざわ ゆきみ)

## 在校生に送る言葉

「学生生活で元気を保つ秘訣とは」



大学院 米倉 一磨

この3年間は、望んだ学びとはいえず

勉学と仕事の両立は本当に大変でした。そんな毎日に疲れ果てた頃、朝早い通学路で、野菜直売所へふらっと立ち寄る機会がありました。開店したばかりの直売所は、高齢の方が慌しく朝採れたばかりの野菜を納めていました。その顔は、私の疲れている表情とは違いくらい好きなことを楽しんでいる「生きがい」のある顔でした。一体これほどのようなことなのでしょうか。自分もや

りたいことをしているはずなのに、なんだか恥ずかしい気持ちになりました。それ以来、元気が欲しいときは、直売所の元気な高齢者を思い出します。何かを生み出し世の中に広がっていく楽しみを得る。これは、学ぶことの教訓にもなりそうです。みなさんも、困難にあつたら、パワースポットの直売所にいつてみませんか。(よねくら かずま)

# 贈る言葉

## 在校生から卒業生へ

### 卒業生へ

3年 森田 真矢

ご卒業おめでとうございます。卒業生の方々には大学生活の中で多々お世話になりました。大学での過ごし方を教えていただいたり、テストの勉強の仕方を教えていただいたり、部活動でお世話になったりと、今思い返してもきりがなくらいです。

が解けない私たちを、優しく招いていただき、大学生という者の在り方を教えていただきました。あの交流会で私は、緊張がとれ、その後の大学生活を楽しく過ごせたと思っています。卒業生が卒業してしまうのは寂しいですが、卒業生の方々に教えていただいたことを後輩に伝え、少しでも卒業生のような立派な最上級生となれるよう努力していきたいです。

特に一番強く印象に残っているのは、私たちが入学したばかりの頃に開いてくれた、新入生と在校生、先生方との交流会です。また、入学したてで緊張

最後に、今まで本当にお世話になりました。卒業してからもそれぞれの道で活躍されますことをお祈りしています。(もりた しんや)

## ご卒業おめでとうございます

大学院 安中 みい子



ご卒業おめでとうございます。皆さんに始めてお会いしてからもう2年が過ぎてしまいました。カレーパーティーやパーベキュー、クリスマスパーティーなど、たくさん楽しみましたね(院生がこんなに余裕があるなんて・・・と非難をうけそうですが・・・)。でも何より、皆さんの看護に対する考えや姿勢が素敵で、私たちは大きな刺激を受けました。講義やプレゼンテーションで看護を語り合う時、皆さんの姿がなんと

頼もしく、力強く、賢く思えたことか・・・。また、研究を続ける姿は、顔色が悪く髪が乱れ、目の下にクマがあるうとも、とても輝いて見えました。皆さんが卒業されてしまおうと寂しくなりませんが、私たちも皆様の後に続くことができるよう頑張りたいと思います。今後も、皆さんの素晴らしい活躍話が届くことを、光が丘の地に期待しております。(あんなか みいこ)

## 成人看護学実習を終えて

3年 小山 麻実



2週間の実習を通して、周手術期の患者さんの術前、術中、術後と関わり、術前には術後合併症を予防するための術前訓練など、手術に向けて準備を行いました。術中は患者さんと一緒に手術室に入り、実際に手術の見学を行い、どんな侵襲があり患者さんの身体にどんな影響があるか、術中看護について学びました。術後は患者さんの状態を一つずつ丁寧に観察しながら、看護を提供しました。その中で術後の患者さんの身体面、精神面の変化の大きさに驚き、術後起こる可能性がある術後合併症を予測しながら看護を提供していくことの大切さ、それと同時に安全に患者さんが過ごせるようにすることの大切さを実感しました。今回の実習で貴重な経験をさせていただいたことに感謝し、さらに学びを深めていきたいと思えます。(こやま まみ)

## 老人看護学実習を終えて

3年 舟山 真由



私は老人看護学実習における患者さんとの関わりの中で、看護を実践するにあたり高齢者の生きてきた時代背景や人生史、価値観を把握することの重要性を実感した。高齢者の多くは、激しい時代を生き抜いてきており、その中で確立された生活習慣や価値観には高齢者特有のものがある。そのため、高齢者のひとつひとつの発言や行動には意味があり、それを理解することにより看護の内容や方法を考えることや看護の個性を高めていくことができるということを学ぶことができた。また、実習を通して一番大切にされるべきは医療者の都合ではなく、患者さんの意思や希望であるということを感じた。今後、看護者として、どう対応したら患者さんの苦痛を少しでも軽減することができるかということを考えるながら、常に患者さんの安楽を追求していく姿勢を忘れずに柔軟性や創造性を持って看護を実践していきたいと思える。(ふなやま まゆ)

## 患児の援助における遊びを通じた工夫の必要性

3年 佐藤 史



今回の小児看護学実習では、小児看護に必要な「遊び」を通して大きな学びを得ることができた。現在の遊びにおける環境は昔と比較してはるかに充実しており、看護者がちよつとした工夫を凝らすことによつて、個々に合った様々な遊びを提供しながら患児に必要な援助を行うことができる環境にあることが分かった。したがって、私たちは現代の豊富な資源を積極的に活用し、自らの経験や他の人々の思考を駆使して工夫を凝らした援助を考え、提供する中で、患児に対して質の高い看護が提供できる可能性が高くなることがわかった。また、それらの援助をさらに良いものにしていくためには、実施中の患児の様子を詳しく観察し、それに対して丁寧に評価し、次回の援助に活かしていくことが大切であることを今回の実習を通して学ぶことができた。(さとう ちか)

## 母性看護学実習での学び

3年 一条 由実奈



老人看護学、精神看護学と2つの領域別実習を終えて臨んだ母性看護学実習でしたが、それまでの疾患に焦点を当てた実習とは異なる点がとても多いと感じた実習でした。というのも、母性看護学の対象は基本的には健康な妊産褥婦と新生児であり、妊娠から出産、さらには退院後の生活が順調に経過していくよう長期的にケアしていくことが求められるからです。実習中に看護師や保健師の妊産褥婦に対するケアや指導を見学していると、看護職者は母親にセルフケア行動を促すためにさまざまな工夫をしながらその人に適したケアや指導を行っているということに気付きました。患者さん一人一人に合った個性のあるケアや指導を実施するためには、やはり患者さんのことをよく知り、ひとつひとつ丁寧にアシメントすることによつて出来るのだということを実感しました。残りの実習ではこれまでの実習で学んできたことを生かし、またこれまでの実習を通して気付いた自分自身の課題とも向き合いながら取り組んでいきたいと思えます。(いちじょう ゆみな)

## 精神看護学実習を終えて

3年 加藤 史子



先日、精神看護学の領域別実習を終えました。領域別実習は3回目でしたが、一番苦労したように思います。担当させていただいた患者さんとはうまくコミュニケーションがとれず、問題となつていことは分かっているのにその問題がなかなか解決できずにいました。いろいろ考えてプランを立てるものの一方向に結果が出ずに悩んだこともありましたが、しかし、同じグループのメンバーの意見や先生のアドバイスを聴き、もう一度冷静に振り返つて考えることが出来ました。そのため、無事に実習を終えることができました。今回の実習では今までの実習と違い悩んだことが多く、だいぶ苦しい実習でしたがその分学んだことも多かったように思います。3年生の実習も残すところあと2回となりました。いまままでの実習で学んだことをいかしながら、また新しいことを学ぶために積極的に行動していきたいと思えます。(かとう ふみこ)

# 実習を通して 学んだこと。

## 看護ケア提供システム 実習での学び

1年 中山 香



先日、私たちは「看護ケア提供システム実習」で、病院・老人保健施設・学童クラブの三つの施設を訪問し、それぞれの施設の役割とそこで働く看護師の役割について学びました。どの施設でも、看護師が施設の目的を理解し、知識や技術、経験を生かしながら働いていた姿が印象的でした。特に、老人保健施設での生活に密着した看護・支援が印象に残っています。生活の流れの一環として施設への通所が位置づけられ、その中でも危険を予測し排除したり、表情や行動、スキミングなどから普段との変化を敏感に感じ取って、健康の管理・維持に生かすなどさげない各所で看護の能力が生かされていました。また、利用者さんの話や表情から通所が生活に張りを与えていることも感じられました。この実習を通して、

様々な看護師の顔を知ることができました。また、看護の技術・知識と観察力の重要性を大いに感じ、これからの学習の意欲に還元していこうと思います。  
(なかやま かおる)

## 課題別実習での学び

4年 後藤 未帆



今回の実習は、子ども達の「強さを感じる実習」でした。私が実習させていたいただいた施設では、障がいを持つ子ども達が生活しています。長期間家族と離れて生活しているため、子ども達には寂しさや甘えたい気持ちがあります。しかし、その気持ちを我慢し、勉強やりハビリに一生懸命取り組んでいる子ども達と関わり、子ども達の「強さ」を感じました。また、実習最終日にある女の子が、涙を流す私の肩を、後ろから「ぼんっ」とたたき、微笑みながら「絶対泣いてると思った」と声をかけてくれました。私の肩に乗った彼女の手はとても大きく、温かく感じられ、そのような彼女の優しさも、子ども達の持つ「強さ」だと感じました。今回の実習では、子ども達から多くのことを学ばせてもらい、とても実りの多い実習でした。また、一緒に遊んでもらって、とても楽しい実習になりました。  
(ごとう みほ)

## 看護管理学実習に参加して

4年 大槻 朋世



先日、4年間の学生生活において最後の実習となる看護管理学実習を終えました。1週間という短い実習でしたが、来年から看護師として実際に働いていく上で大切なことをたくさん吸収できた実習でした。  
看護管理には人事管理、環境管理、業務管理、患者サービス管理、医療安全管理、感染管理

など様々な管理があり、この実習ではその実習を学びました。このような看護管理の必要性について考えたとき、それは全て患者さんの安心・安全のためであり、これらの管理がしっかりなされていなければ患者さんにとっての安心・安全な医療や看護は提供できないと改めて感じました。管理者とは看護部長や病棟

# 授業を通して学んだこと。

## ヘルスアセスメントを通して

2年 片山 夕佳



私は2年後期になって、ヘルスアセスメントの講義を通して看護の深さというのを学んだ。看護とはどういうことなのかを考えさせられる講義の一つだった。ヘルスアセスメントは対象の健康状態を身体的・精神的・社会的・発達的に捉えて、全体的に対象の健康問題に対する反応に適切な看護を実践するためのものである。看護は対象の生活や、心に寄り添って行うと学び、1年から看護とは何かを考えてきた。しかし、対象の身体のことをより知ることでもっと良いケアを対象に提供できるということである。私はこれを学び、対象が安心して生活できるような看護を提供するには、ヘルスアセスメントの力が大切だと思ふ。基礎実習も行い、直接対象と向き合う機会があったが、全体的に対象を看することは難しいと感じた。そのため、これからまた勉強をして実習に取り組む中で、看護とは何かを考えていきたいなと考える。  
(かたやま ゆうか)

# 平成22年度看護学部公開講座委員会報告

公開講座委員会委員長 黒田 真理子

第1回は、「がんはなぜ起こるか?がんの特性に応じた治療を理解して看護に活かそう」というテーマで10月9日(土)に郡山駅前のビッグアイで開催されました。本学部の森努准教授から、発がんのメカニズムについて、癌抑制遺伝子・癌遺伝子の中からDNAの損傷・修復、抗がん剤の種類までかなり専門的な講義がありました。

第2回は「知っておきたい高齢者の睡眠ケアの基本」というテーマで、11月6日(土)に福島駅前のユニックスビルで開催されました。本学部の志賀令明教授から「高齢者の睡眠障害の原因となりうるうつ病について」と題して、高齢による身体への影響、高齢者のうつの特徴やその

対処方法について、増田元香准教授から「高齢者の睡眠ケアについて」と題して、高齢者の睡眠障害の特徴、原因、対処方法について、黒田真理子教授から「睡眠導入のためのリラクゼーション法」と題して、呼吸法、自律訓練法、イメージ法などの講義と実技がありました。

(くろだ まりこ)



## 国際学術交流委員会報告

### 講演会「ウズベキスタン保健医療の状況」開催

国際学術交流委員会委員長 中山 仁

国際学術交流委員会委員長 中山 仁

12月14日、矢嶋和江教授(弘前医療福祉大学保健学部看護学科)を講師に招き、本学教員・学生を対象に講演会を開催した。本学部では2008年からウズベキスタン共和国タシケント医学アカデミー・フェルガナ校との学術交流を行っているが、今後の交流のあり方を検討するにあたって、現地での長期滞在経験のある看護系教員から直接話を伺うことは極めて重要であると考え、この講演会を企画した。矢嶋教授はJICAカンボジア難民救援活動をはじめ、国際緊急援

助隊医療チームの一人として海外の被災地での救援活動に参加するなど、海外活動経験が豊富で、ウズベキスタンに関しては2006年から2年間JICA看護専門家として看護教育プロジェクトに参加されている。講演では、ウズベキスタンの言語、文化や政治経済の状況を概観した上で、医療、看護の状況について幅広くお話を伺うことができた。特に、看護教育システムや看護学生の意識調査結果や授業風景の写真などは、短期滞在中は入手困難なものであるだけに、貴

重な情報を数多く得ることができた。なお、矢嶋教授から『ウズベキスタン滞在記』をはじめとした3点のご著書をご寄贈いただいたので、関心のある方は委員長までご連絡ください。

(なかやま ひとし)



## 光が丘祭実行委員会を終えて



光が丘祭副実行委員長  
2年 渡部 綾紗美

光が丘祭は企画から運営までの全てを自分たちの手で作り上げます。企画・部門ごとにグループ分けはされていますが、お互いに協力して作業を進めていきます。

確かに、実行委員は大変な役割であるかもしれません。実行委員でなければ、あんなに遅くまで学校に残っていることもないし、一つの映像をひたすら編集することもなかったでしょう。しか

し、いつの間にか企画はカバンの中へ、その代わりに企画が目の前にはつきりとした「かたち」となって実現していく時の、あの胸の高鳴り、そして完成した時の大きな喜びは今でも忘れられません。本当に素敵な思い出です。この思い出は実行委員を務めたからこそのものであると、私は考えます。

最後になりましたが、光が丘祭を支えてくださった全ての方々、一緒に頑張った実行委員のみなさんにこの場を借りて感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

(わたなべ あさみ)

## 新任教員 あいさつ



よろしく  
お願いいたします。

基礎看護学部門 國井 真由美

11月末より、丸山育子先生の産休代替えでお世話になっております。

約3年まえより看護技術の自己学習支援という形で学生の皆さんと関わる機会をいただき臨床とは違った看護の楽しさ、深さを実感しております。

基礎看護学という看護の土台を広く、厚く、作るお手伝いができるよう自己研鑽に努め、学生のみなさんに還元できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(くにい まゆみ)

「がん看護EBP研究会」について

応用看護学部 眞壁 玲子

「がん看護EBP (Evidence Based Nursing) 研究会」は、活動を開始して2年目の研究会です。2007年より施行の「がん対策基本法」の基本理念の一つに、「がん患者がその居住する地域にかかわらず等しく科学的知見に基づき適切ながんに関わる医療を受けることができるようにすること」と明文化されています。そこで、がん看護において、科学的知見、「根拠」に基づいたがん看護実践のための研究会を発足しました。



この「がん看護EBP研究会」は、がん看護実践における課題を検討

し、「根拠」を検索(「さがす」)、「根拠」に基づいた看護を提供(「つかう」)、結果として看護の質をより良くする、というのがねらいです。「根拠」がなければ研究し成果を産む(「つくる」)ことも行う予定です。

現在の研究会のメンバーは、福島県内のがん診療連携拠点病院の看護職や宮城県のがん看護専門看護師、本学のがん看護学専攻の大学院生、看護教員等約20名です。概ね隔月に集まり、「さがす」、「つかう」活動をしていきます。また、このような活動と併行して、調査研究も遂行しています。この結果を基にがん看護EBPに関する教育プログラムの作成と展開を行う予定です。

このような活動により、がん看護実践において「根拠」に基づいた看護提供を推進していきたいと考えておりますので、ご協力とご指導をお願い致します。(まかべ れいこ)

看護学部カレンダー

- 3月14日(月)～  
● 春季休業

---

- 3月24日(木)  
● 学位記授与式

---

- 4月 4日(月)AM  
● 在学生オリエンテーション(新4年次生)

---

- 4月 4日(月)PM  
● 在学生オリエンテーション(新2・3年次生)

---

- 4月 5日(火)  
● 入学式

---

- 4月 5日(火)～6日(水)  
● 新入生オリエンテーション

---

- 6月18日(土)  
● 開学記念日

「ここからだは つながっている。」



総合科学部門 志賀 令明

サイトカインというペプチドがあるのはご存知だと思います(私は授業で何度も話しました)。かつて骨密度の研究をしていた時に、このサイトカインのうち、TNF-αの濃度が高い人の骨密度が有意に低いことが分かりました。TNF-αは骨からカルシウムを奪う破骨細胞を活性化させるので、納得できる結果でした。データをいろいろ整理していくうちに、このTNF-α濃度はたとえばBMIの性格検査で表現される「特性的な抑うつ度」が高い人ほど高くなる

ということも分かってきました。つまりもともと抑うつ傾向が高い人では炎症性サイトカインの一つであるTNF-α濃度が高く、骨密度も低いことが分かったわけです。そうこうしているうちに、もう一つの代表的な炎症性サイトカインTNF-αとIL-1βは正相関することが分かってきました。そこで抑うつとTNF-αとの関連を見ると、抑うつ尺度得点とTNF-α濃度の双方が高い人では、肥満度や年齢に関わりなく、TNF-α濃度が高くなることが分かりました。TNF-αは内臓脂肪由来のサイトカインで、特にインスリン抵抗性を高める作用があることが知られています。

この結果に基づき、抑うつ傾向の高い人は加齢に伴いインスリン抵抗性に起因する動脈硬化を起こしやすいのではないかとということを示唆する報告

を書き、投稿して、査読の結果を待つているところです。この場合の抑うつはたぶん単極性のうつか、双極II型のうつと関連するのではないかと考えているのですが確証はありません。いずれにせよ、うつは心にとって重苦しいものでもあります。それだけではなく身体にも、骨密度の減少や、ひよつとして動脈硬化などの結果をもたらすものなのかもしれません。

人間には多少のメラノコリーが人生のスパイスとしては必要なのでしようが、スパイスを入れすぎたカレーを食べるのが辛いように、すっかり消耗するような状態になっては心身ともに問題です。きちんと受診・服薬し、生気を取り戻すことが骨にも血管にも、たぶん免疫系にもいいことなのだと思います。(しが のりあき)



ターナー先生との交流会

三香 久美子 木村 田中  
三香 久美子 木村 田中  
大学院 大学院

福島滞在中の過密なスケジュールの中、山洋子教授のご配慮により、米国Oregon Health & Science 大学のクリス・ターナー教授と大学院生の交流会が実現した。ターナー教授は長きに渡り看護の臨床知について研究しており、1990年代には、ベナー教授と共に、クリニカルジャジメントについての研究も行っている。教授は現在、従来の看護教育の考え方や方法を大きく変革させたオレゴン・モデル(新教育モデル)の発

案・推進・評価の中心的役割を担っている。今まさに、このモデルで教育を受けた看護師の臨床能力の評価の段階であり、その結果が注目されている。交流会では、ターナー教授のこの教育・研究活動についての興味深い講演と、院生が趣向を凝らしたユニークなランチで和やかに進行し、予定時間を超過するほどだった。(きむら みか・たなか くみこ)

編集後記

この光と緑の風通信が皆さまに届くころには少しづつ春の訪れを感じられるころでしょうか。厳しい冬の寒さから解放される暖房要らずのあたたかい春の日差しを待ち遠しく思っています。ですが、その厳

しい冬の寒さがあるからこそ、次に巡ってくる春の喜びがあるのだと思います。皆さまに素敵な春が訪れることを心からお祈りしております。最後に、お忙しい中投稿してくださった皆さまに心からお礼申し上げます。(はしの さとこ)

【編集委員】

- 林 正幸、中山 仁、横田 素美
- 大川 貴子、馬場 香織、星野 聡子
- 鈴木 幸恵、渡邊かおり、福島 直美